

B 路線

路線の概要

B 路線は、A 路線の A-15 から分岐し中腹を通過した後、1024 林班ろ小班の尾根部に到達する。A 路線の次に長い 3.5 km の延長となり、1022 林班と 1024 林班の施業範囲をカバーするとともに、D 路線、G 路線、E 路線の三つの路線の分岐点があり A 路線とともに重要な役割を果たす路線となる。また、B 路線終点と H 路線終点を延長し接続することで循環路線とし、管理経営面への貢献及び保安林機能の維持と向上を図る。

延長

- L= 3,470m

主な構造物

■ コルゲートパイプ(φ1.0m)	．．．	1 箇所
■ コルゲートパイプ(φ0.8m)	．．．	1 箇所
■ コルゲートパイプ(φ0.6m)	．．．	2 箇所
		計 4 箇所

その他

- 一部横断傾斜が 30° を超える箇所を通過する短い区間で、薄層盛土などの流出を防止するため、ふとんかご等の簡易構造物を設置する可能性がある。

① B-0～B-10 区間

A 路線の A-15 を起点として分岐する路線で、D 路線の分岐点に向かいヘアピンを巻いて尾根を上がる必要があるため、7%～9%の若干急な縦断勾配と集材路を利用しながら中・緩傾斜地を上っている。

縦断勾配：1～9%程度

横断勾配：10°～34°程度



B-1 から B-2 方向



B-8 から B-9 方向

② B-11～B-16 区間

D 路線の分岐点に向かい尾根を上がる必要があるため、緩傾斜地の巻き返しが可能な箇所に向かい 5%～9%程度の縦断勾配で通過している。

縦断勾配：5～9%程度

横断勾配：10°～16°程度



B-12 から B-13 方向



B-15 から B-16 方向

③ B-17～B-27 区間

緩傾斜地を利用して巻き返し、部分的に 9% の上り勾配を利用しながら D 路線の分岐点にあたる尾根部に向かい、上がっていく区間となっている。

縦断勾配：2～9%程度

横断勾配：13° ～18° 程度



B-19 から B-20 方向



B-24 から B-25 方向

④ B-28～B-32 区間

B-28～B-32 区間は尾根から中・緩傾斜地を利用しながらゆっくり下っていく。また、この区間には D 路線の分岐点と G 路線の分岐点がある。

縦断勾配：4～9%程度

横断勾配：17° ～31° 程度



B-28 と B-29 の中間にある D 路線分岐点



B-30 と B-31 の中間にある G 路線分岐点

⑤ B-33～B-40 区間

B-33～B-40 区間は、一部 30° 程度の中傾斜地を 9%の縦断傾斜を利用しながら通過し、奥の細尾根の緩傾斜地に向かっている。

縦断勾配：2～9%程度

横断勾配：13° ～31° 程度



B-34～B-35 方向



B-39～B-40 方向

⑥ B-40～B-50 区間

B-42～B-50 区間は、ほぼ予定路線と同様の緩傾斜地を通過している。また、B-49 では沢頭の上を通過しているため排水施設の設置はしない。

縦断勾配：1～7%程度

横断勾配：19°～22°程度



B-49 の CL から川側



B-49 の CL から山側

⑦ B-51～B-60 区間

B-51～B-60 区間は、ほぼ予定路線と同様の緩傾斜地を通過しながら緩く下っている。

縦断勾配：2～9%程度

横断勾配：9°～32°程度



B-52～B-53 方向



B-59～B-60 方向

⑧ B-61～B-70 区間

B-61～B-70 区間は、予定路線を通過すると横断傾斜が急な区間がある。また、湿地を通過することから、予定路線山側の緩傾斜地を通過している。

縦断勾配：2～8%程度

横断勾配：21°～26°程度



B-63～B-64 方向



B-69～B-70 方向

⑨ B-71～B-80 区間

予定路線の通過箇所である B-71 の川側は横断傾斜が緩い湿地であり、その前後は横断傾斜が急なことから、山側の緩傾斜地を通過した後に沢に向かって下っている。

縦断勾配：1～9%程度

横断勾配：18°～21°程度

B-73 の沢：沢勾配 29% コルゲートパイプ(φ0.6m)程度が必要。

B-79～B80 の沢：沢勾配 12% コルゲートパイプ(φ1.0m)程度が必要。



B-72～B-73 方向



B-79～B-80 の沢 下流方向

⑩ B-81～B-90 区間

B-81～B-90 区間は、ほぼ予定路線と同様の緩傾斜地を通過しながら緩く上っている。

縦断勾配：1～9%程度

横断勾配：13°～25°程度

B-81～B-82 の沢：沢勾配 14% コルゲートパイプ(φ0.8m)程度が必要。



B-81～B-82 方向 (沢渡り箇所)



B-85～B-86 方向

⑪ B-91～B-100 区間

B-91～B-97 までの区間は、ほぼ予定線の通りとなるが、そこから尾根に向かい急傾斜地に入るため、予定線より山側の緩傾斜地を通過している。

縦断勾配：1～9%程度

横断勾配：14°～29°程度



B-93～B-94 方向



B-98 から森林作業道分岐方向

⑫ B-101～B-110 区間

B-107～B-108 の沢渡り位置は、予定路線位置で渡ると沢が分かれ排水施設が複数になるため、50m程度川側の沢が合流した箇所を沢渡りの位置に変更し一部集材路跡を利用しながら予定路線位置より川側の緩傾斜地を通過する。

縦断勾配：2～8%程度

横断勾配：14°～26°程度

B-107～B-108 の沢：沢勾配 25% コルゲートパイプ(φ0.6m)程度が必要。



B-103～B-104 方向（既設集材路跡を利用）



B-107～B-108 の沢渡り

⑬ B-111～B-116 区間

緩傾斜地と一部集材路跡を利用しながらから 8%～9%の上り勾配で終点予定位置に向かう。

縦断勾配：1～9%程度

横断勾配：7°～13°程度



B-112～B-113 方向

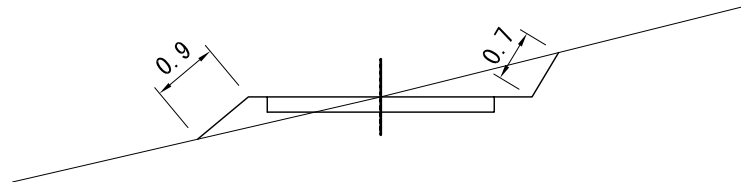


B-115A 森林作業道分岐方向

標準横断面図 S=1:100

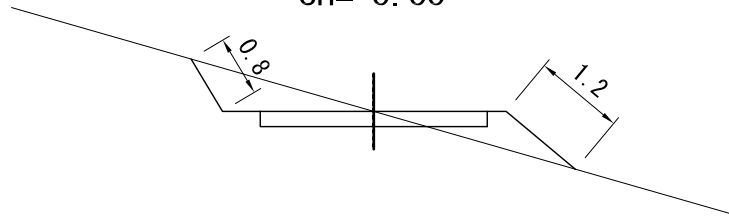
B-20

CH= 0.00



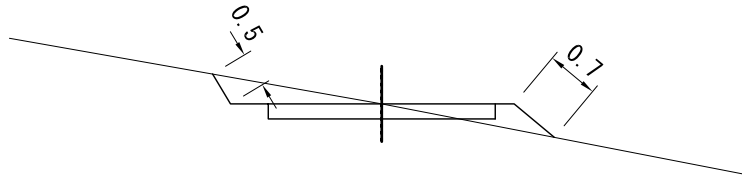
B-15

CH= 0.00



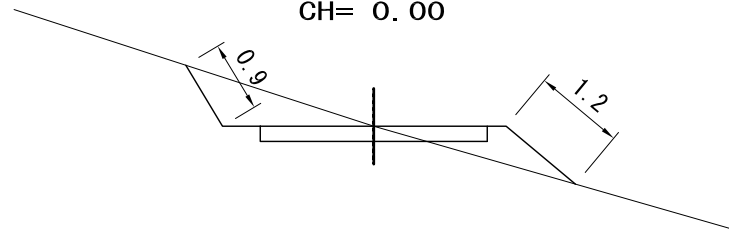
B-10

CH= 0.00



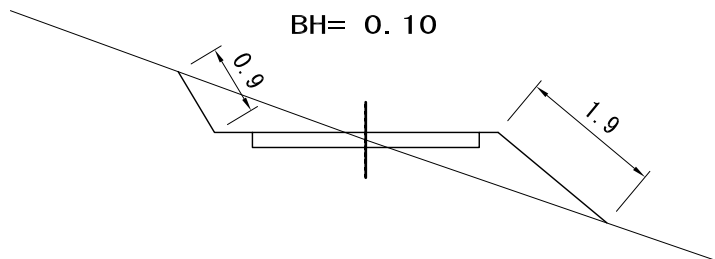
B-5

CH= 0.00



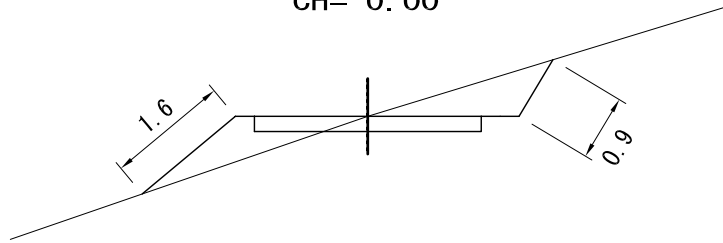
B-1

BH= 0.10

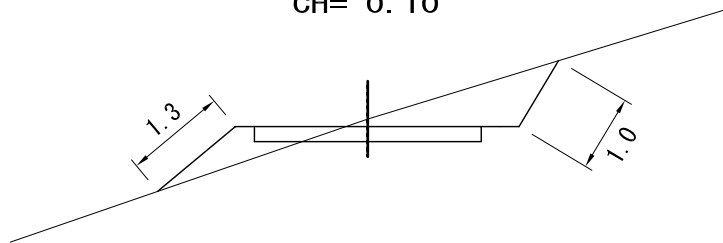


標準横断面図 S=1:100

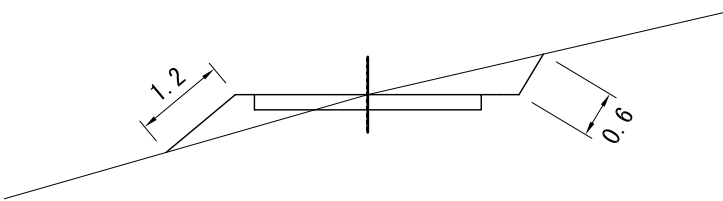
B-40
CH= 0.00



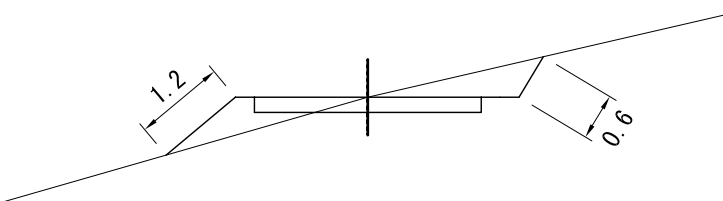
B-40
CH= 0.10



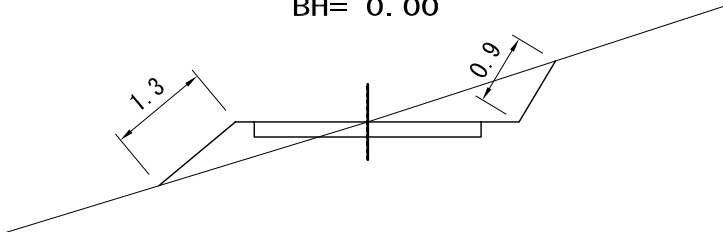
B-36
BH= 0.00



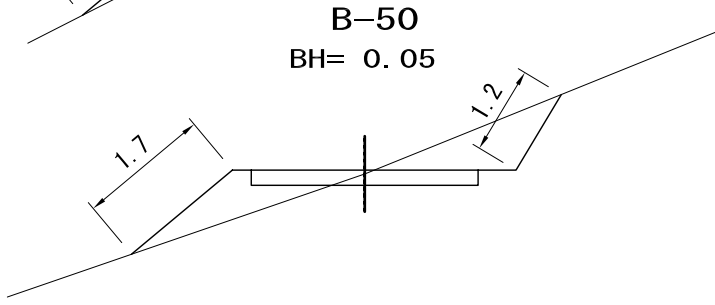
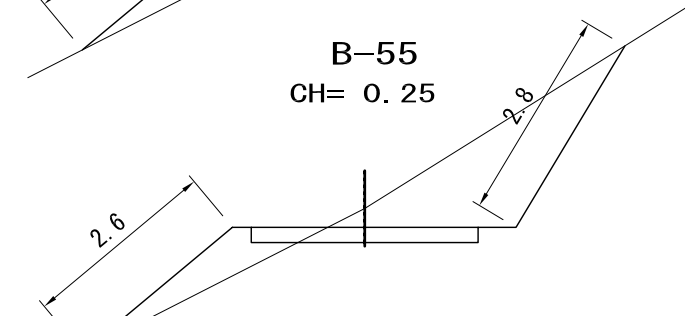
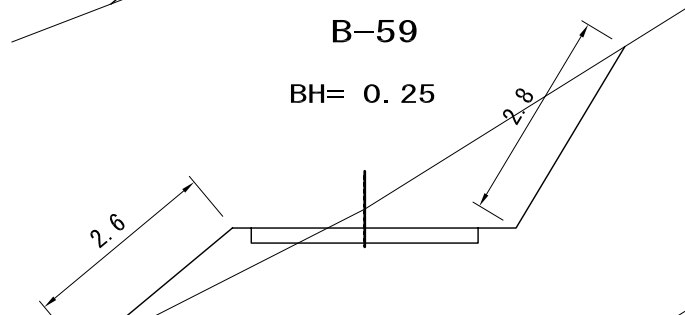
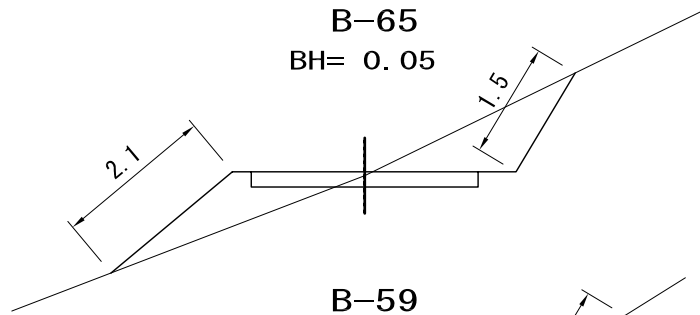
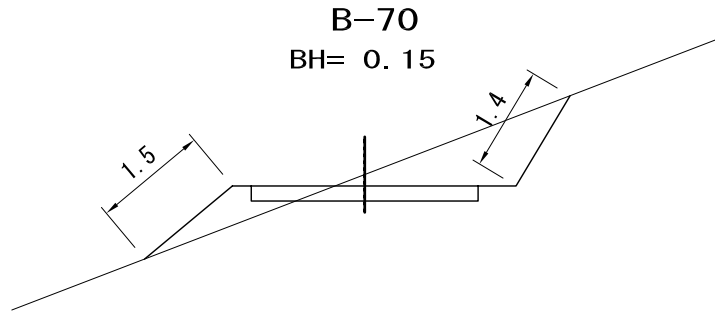
B-30
BH= 0.00



B-25
BH= 0.00

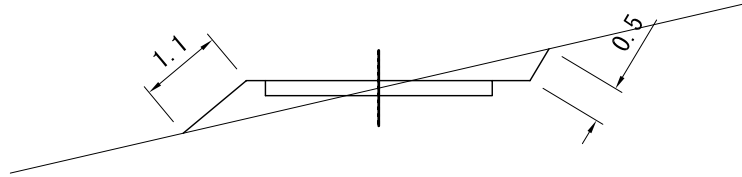


標準横断面図 S=1:100

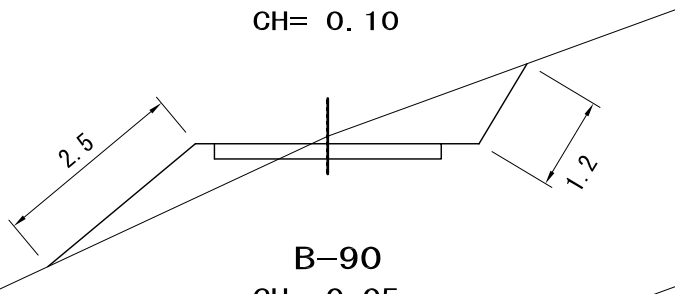


標準横断面図 S=1:100

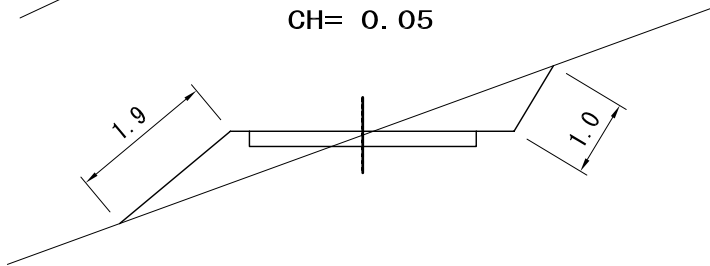
B-99
BH= 0.10



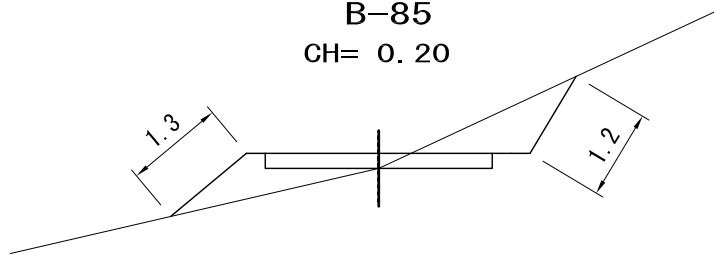
B-95
CH= 0.10



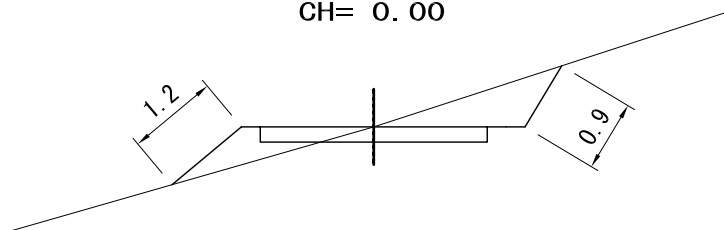
B-90
CH= 0.05



B-85
CH= 0.20

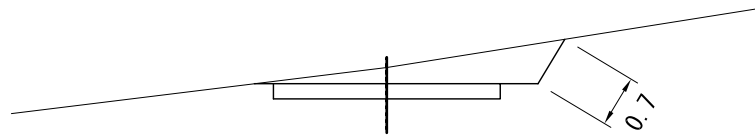


B-75
CH= 0.00

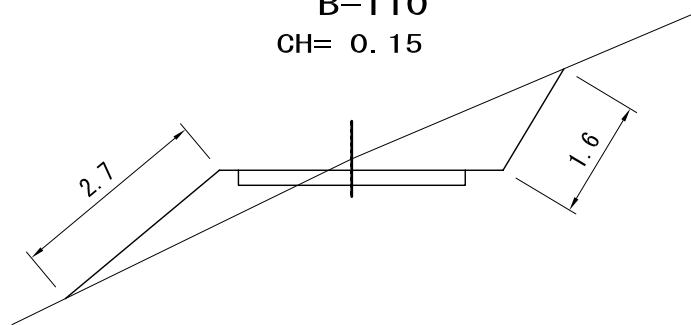


標準横断面図 S=1:100

川側取付の場合
B-115
CH= 0.22



B-110
CH= 0.15



D 路線

路線の概要

D 路線は、B 路線の B-28 の MC 付近を起点として分岐する枝線で、A、B 路線ではカバーしきれない川側の造林地 1022 林班は小班での施業を行うために計画する路線である。

延長

- L= 590m

主な構造物

- コルゲートパイプ(φ0.6m) . . . 1箇所

その他

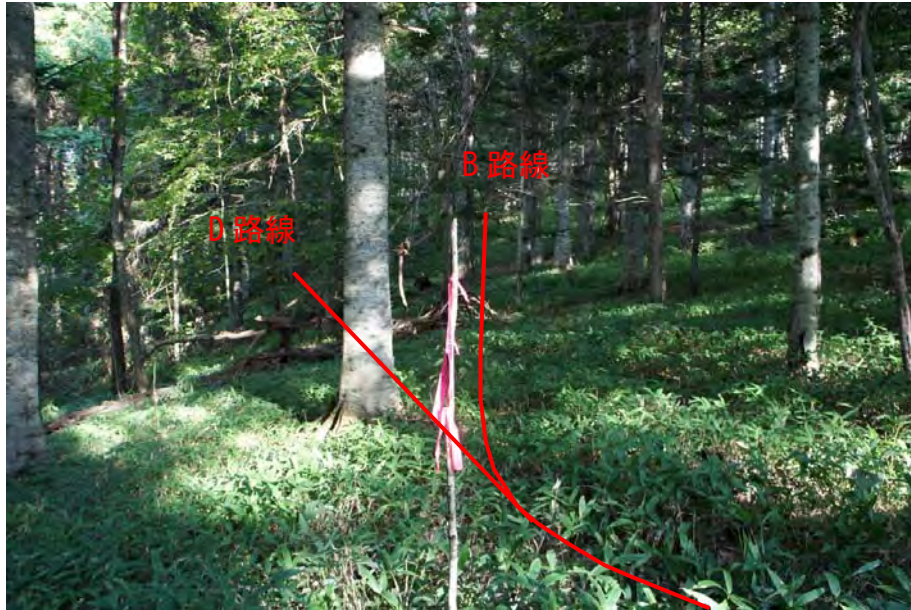
- 一部横断傾斜が 30° を超える箇所を通過する短い区間で、薄層盛土などの流出を防止するため、ふとんかご等の簡易構造物を設置する可能性がある。

① D-0～D-5 区間

B 路線から分岐する起点位置は、現地検討会での委員の意見を踏まえ現在より高い尾根の平場を利用することとした。D-7～D-8 の沢渡り箇所に向かい下って行かなければならないことから、一部 11%の急な縦断勾配を利用している。

縦断勾配：6～11%程度

横断勾配：18°～24°程度



B 路線との分岐点から D-1 方向



D-5～D-6 方向

② D-6～D-15 区間

D-7～D-8 の沢渡りに向かい一部急な斜面を通過するが極力切土高を抑えながら沢を横断する。また、D-10 から奥の尾根は予定路線位置が 35° ～ 40° の急斜面であることから、路線を 40m程度山側に変更している。

縦断勾配：1～9%程度

横断勾配： 27° ～ 30° 程度

D-7～D-8 の沢：沢勾配 21% コルゲートパイプ($\phi 0.6\text{m}$)程度が必要。



D-7～D-8 の沢 下流方向



D-7～D-8 の沢 上流方向



D-10~D-11 方向



D-12~D-13 方向

③ D-16～D-21 区間

尾根から急傾斜地を避け遷急線上部の緩傾斜地を通過した後、4%～8%の下り勾配を利用して終点に到着する。

縦断勾配：4～8%程度

横断勾配：19°～22°程度



D-16 付近の川側 急傾斜地



D-16～D-17 方向

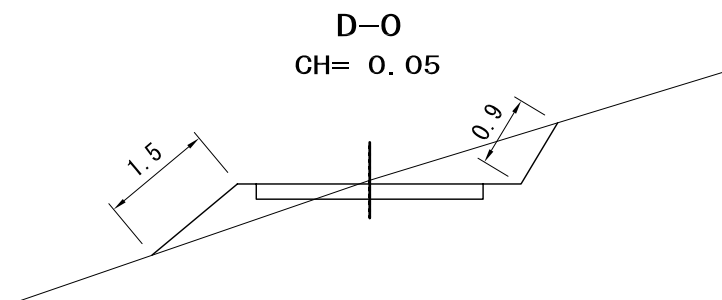
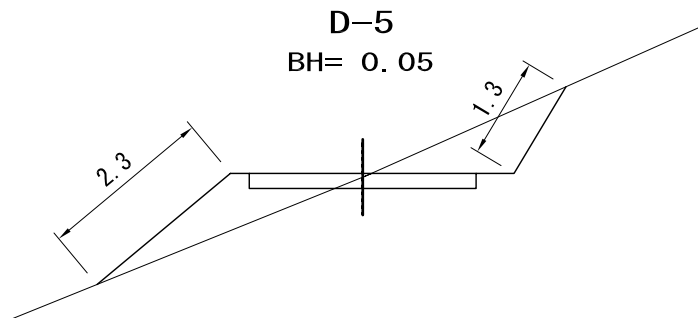
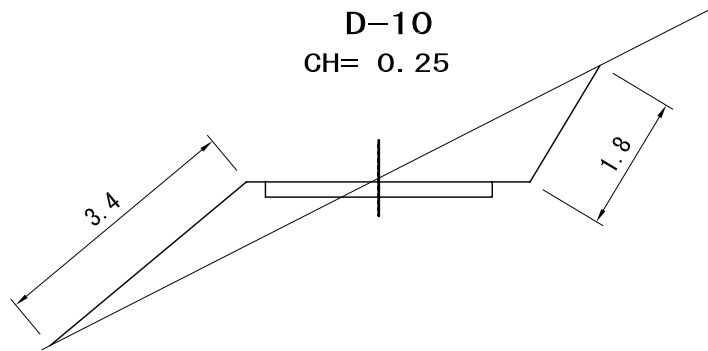
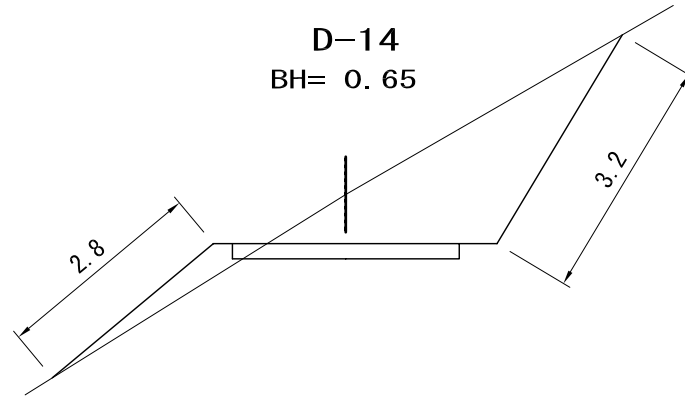


D-19～D-20 方向

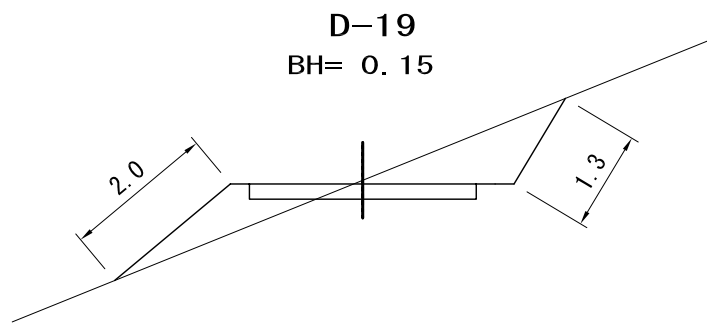
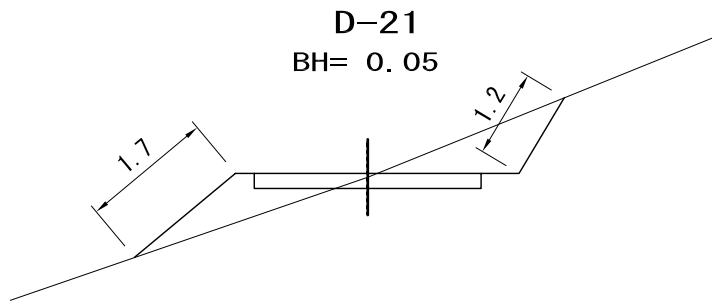


終点 D-21 から奥の沢方向

標準横断面図 S=1:100



標準横断面図 S=1:100



E 路線

路線の概要

E 路線は、B 路線の B-111 を起点として分岐し、F 路線の F-7～F-8 の中間点に接続する循環路線であり、保安林機能と分収育林の管理経営面への貢献及び維持と向上を図る路線である。

延長

- L= 790m

主な構造物

- ポリ波状パイプ（ $\phi 0.4\text{m}$ ）もしくは暗渠排水工等 2箇所

その他

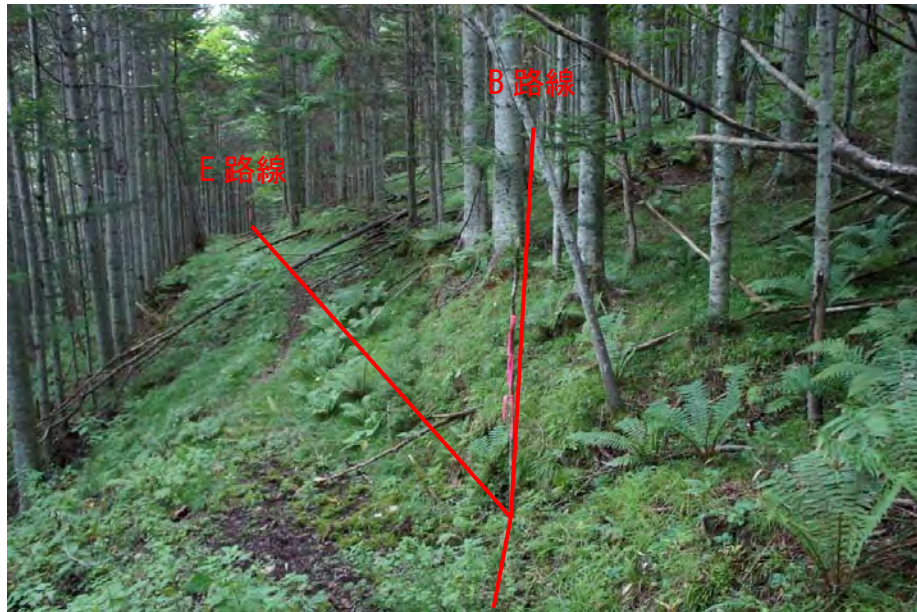
- 一部横断傾斜が 30° を超える箇所を通過する短い区間で、薄層盛土などの流出を防止するため、ふとんかご等の簡易構造物を設置する可能性がある。

① E-0～E-10 区間

B 路線の B-111 を起点として分岐する路線で、尾根の中腹の中傾斜地を 9%の縦断勾配を利用して下る路線となっている。

縦断勾配：2～9%程度

横断勾配：8° ～29° 程度



B 路線の分岐点 B-111 から E-1 方向



E-8 から E-9 方向

② E-11～E-15 区間

E-11～E-15 区間は中・緩傾斜地を概ね 7%～8%の縦断勾配で下りながら、分収育林の尾根部に向かっている。

縦断勾配：7～8%程度

横断勾配：11°～20°程度



E-12 から E-13 方向



E-14 から E-15 方向

③ E-16～E-20 区間

分収育林の尾根部を利用して巻き返し、F 路線に向かって緩傾斜地を 7%～8%の縦断勾配で下っている。また、E-13～E-14 の間で沢形状をした常水の無い箇所を通過している。

縦断勾配：8%程度

横断勾配：11°～14°程度

E-13～E-14 の沢：沢勾配：21% ポリ波状パイプ(φ0.4m)か、暗渠排水工が必要。



E-16 から E-17 方向



E-19 から E-20 方向

④ E-21～E-28 区間

緩傾斜地を 4%～8%の縦断勾配で巻き返した後、F-7～F-8 の中間点に接続する。
また、E-20～E-21 で沢形状をした常水の無い箇所を通過している。

縦断勾配：4～8%程度

横断勾配：12°～14°程度

E-20～E-21 の沢：沢勾配：23% ポリ波状パイプ(φ0.4m)か、暗渠排水工が必要。



E-20 から E-21 方向

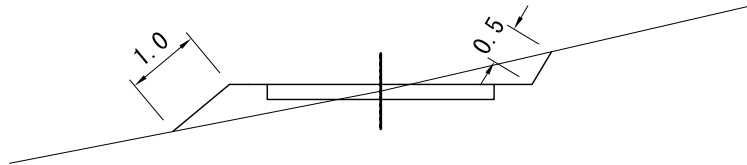


E-27 から E-28 方向

標準横断面図 S=1:100

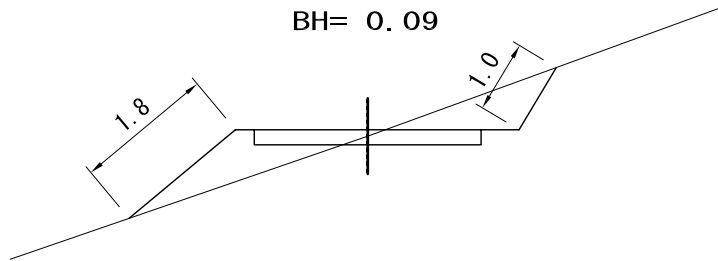
E-15

BH= 0.09



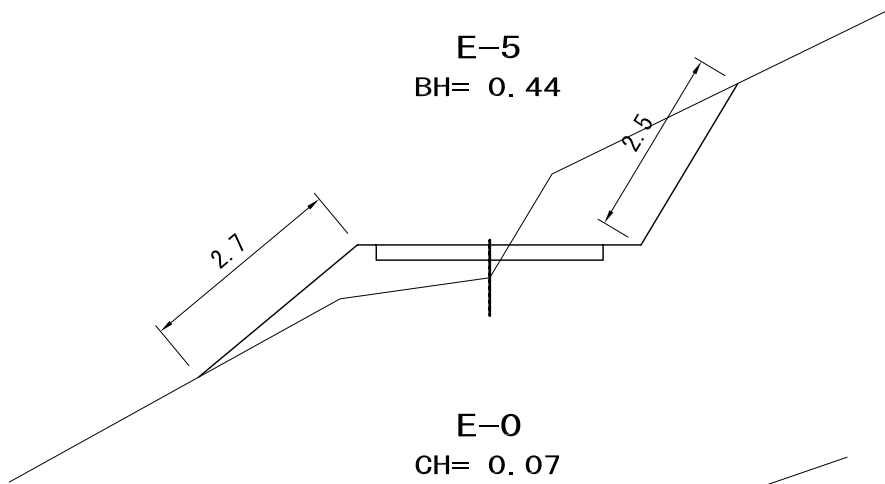
E-10

BH= 0.09



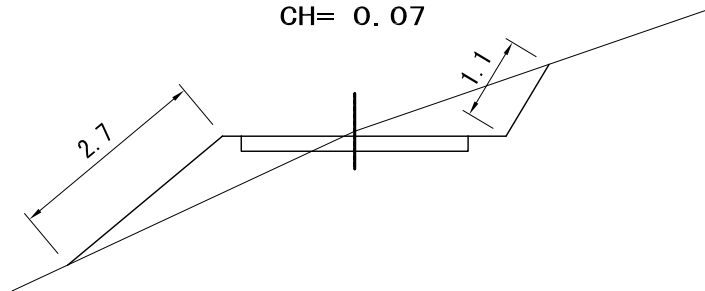
E-5

BH= 0.44



E-0

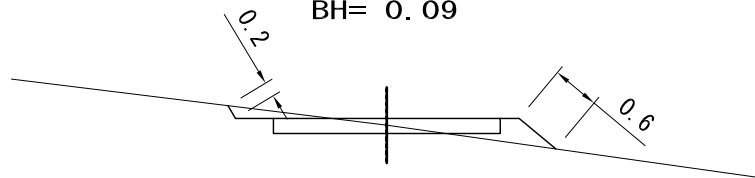
CH= 0.07



標準横断面図 S=1:100

E-28

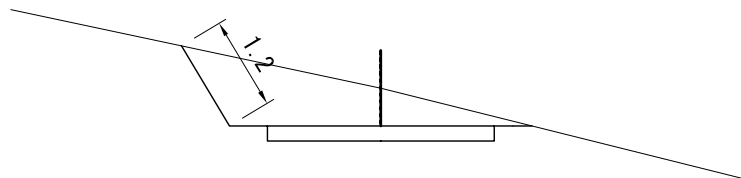
BH= 0.09



川側取付の場合

E-25

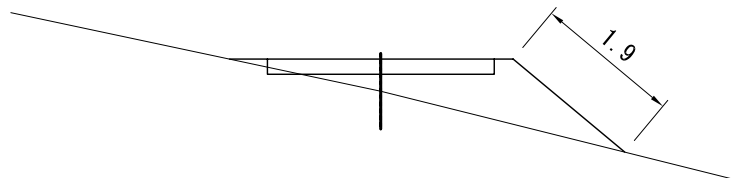
CH= 0.50



山側取付の場合

E-20

BH= 0.43



F 路線

路線の概要

F 路線は、北海道道 143 号北見白糠線から分岐する陸別町道入口付近を起点とし一部分収育林内を通過したのち、B 路線ではカバーしきれない川側の造林地 1024 林班ろ小班での施業を行うために計画する路線である。この施業区域に到達するためには奥の深い沢とその前後の急傾斜地を通過する必要があるため、B 路線と循環することを目的に E 路線を計画した。また、コスト及び維持管理を考慮すると、町道側を起点とし分収育林の一部を通過して施業地に入ることが望ましい。

延長

- L= 770m

主な構造物

- コルゲートパイプ(φ1.2m) . . . 1箇所

その他

- 一部横断傾斜が 30° を超える箇所を通過する短い区間で、薄層盛土などの流出を防止するため、ふとんかご等の簡易構造物を設置する可能性がある。
- 横断傾斜が 10° 以下の区間が多くあるため森林作業道の取付可能な箇所が多い。

① F-0～F-3 区間

陸別町道から分収育林の一部を利用して造林地に進出し、10° 前後の緩傾斜地を通過する路線となっている。

縦断勾配：3～9%程度

横断勾配：7° ～12° 程度



F-0～F-1 方向



F-1～F-2 方向

② F-4～F-9 区間

予定路線の沢渡りとその前後は急傾斜地であることから、それを避けるためF-7 付近から 7%～9%の縦断勾配で手前の尾根部を利用しながら、予定線より 50m程度川側を通過している。

縦断勾配：4～7%程度

横断勾配：3°～25°程度



F-4～F-5 方向

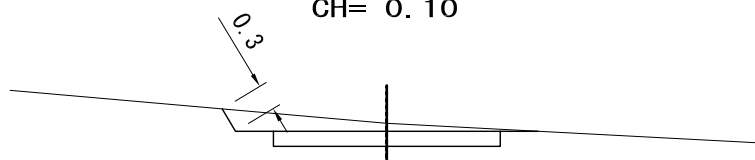


F-8～F-9 方向

標準横断面図 S=1:100

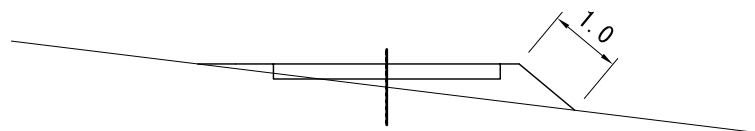
川側取付の場合
F-9-1

CH= 0.10



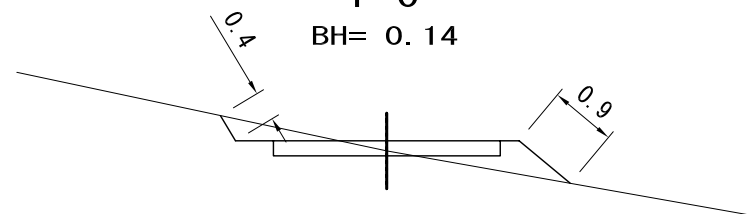
山側取付の場合
F-6

BH= 0.31



F-0

BH= 0.14



G 路線

路線の概要

G 路線は、A 路線の A-151 付近から分岐し、B 路線 B-30 と B-31 の中間付近に接続する循環路線である。この路線は、A 路線及び B 路線ではカバーできない 1022 林班に、ほ小班での施業を行うために計画する路線である。

延長

- L= 1,230m

主な構造物

- G 路線は尾根筋が近く集水範囲が小さいことと、流水による浸食等の形跡が見られないことから、排水施設等の構造物設置は行わない。

その他

- 一部横断傾斜が 30° を超える箇所を通過する短い区間で、薄層盛土などの流出を防止するため、ふとんかご等の簡易構造物を設置する可能性がある。

① G-0～G-10 区間

G-0～G-10 の区間は、1022 林班と 1024 林班の境界にあたる尾根の平場を起点とし、緩傾斜地を概ね緩い下り勾配で通過している。また、G-8 は H 路線の分岐点となっている。

縦断勾配：1～7%程度

横断勾配：5°～17°程度



A-151 の分岐点から G-1 方向



G-7～G-8 方向 (G-8 は H 路線の分岐点となる。)

② G-11～G-20 区間

尾根に近い中傾斜地を、一部 9%の縦断勾配を利用しながら B 路線の接続部に向かい下っている。

縦断勾配：2～9%程度

横断勾配：20° ～23° 程度



G-14～G-15 方向



G-18～G-19 方向

③ G-21～G-25 区間

G-21 から G-25 の区間は中傾斜地を 7%～9%の急な下り勾配で、B 路線の接続部に向かい下っている。

縦断勾配：7～9%程度

横断勾配：22°～27°程度



G-21～G-22 方向



G-25～G-26 方向

④ G-26～G-30 区間

G-26 から G-30 の区間は中傾斜地を 7%～9%の急な下り勾配で、B 路線の接続部に向かい下っている。

縦断勾配：7～9%程度

横断勾配：19°～27°程度



G-26～G-27 方向



G-29～G-30 方向

⑤ G-31～G-35 区間

G-31 から G-35 の区間は、中傾斜地を 4%～8%の下り勾配で、B 路線の接続部に向かい下っている。

縦断勾配：4～9%程度

横断勾配：20°～28°程度



G-31～G-32 方向



G-34～G-35 方向

⑥ G-36～G-40 区間

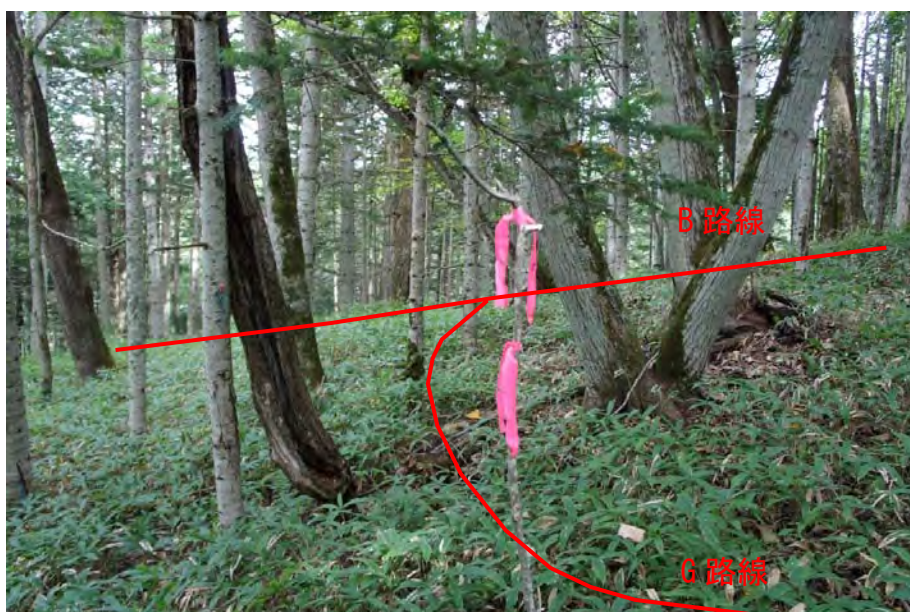
G-36 から G-40 の区間は、中傾斜地を 6%～9% の下り勾配で、B 路線の B-30 と B-31 の中間点に接続している。

縦断勾配：6～9%程度

横断勾配：3°～36°程度



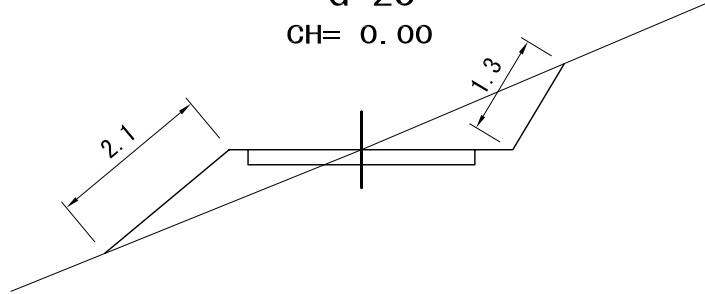
G-36～G-37 方向



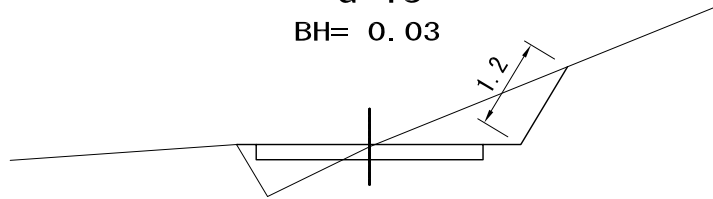
G-39～G-40 方向

標準横断面図 S=1:100

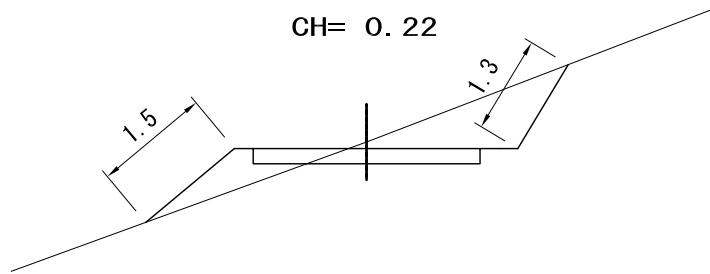
G-20
CH= 0.00



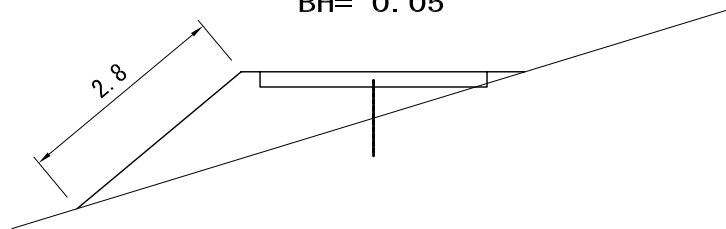
川側取付の場合
G-15
BH= 0.03



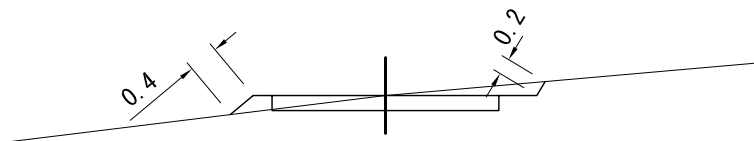
G-10
CH= 0.22



山側取付の場合
G-5
BH= 0.05

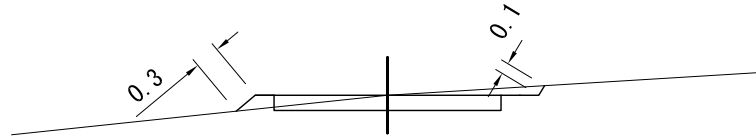


G-0
CH= 0.00

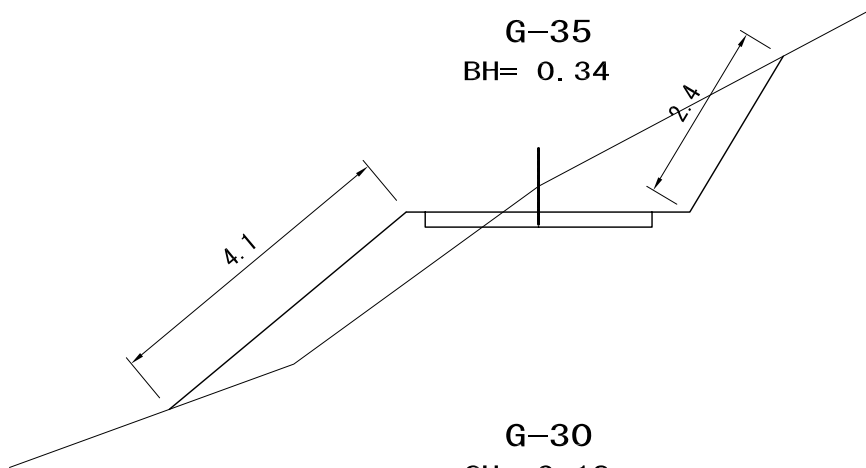


標準横断面図 S=1:100

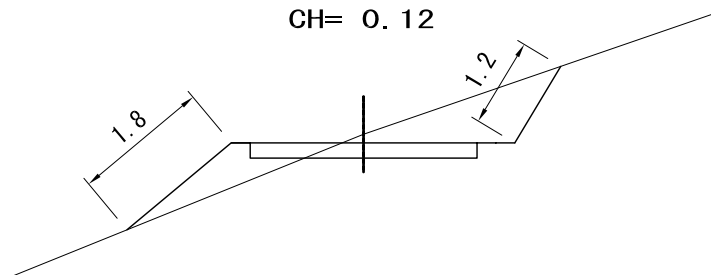
G-40
CH= 0.12



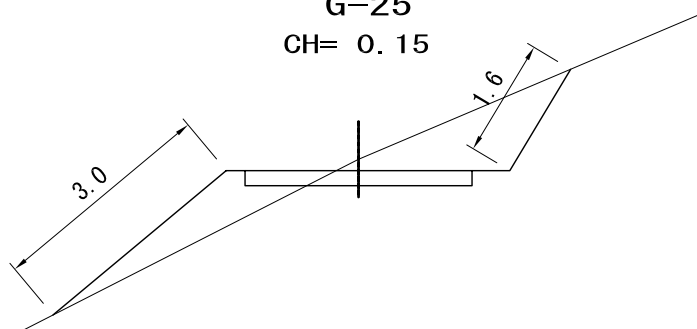
G-35
BH= 0.34



G-30
CH= 0.12



G-25
CH= 0.15



H 路線

路線の概要

H 路線は、G 路線の G-8 付近から分岐し、A、B 路線ではカバーしきれない造林地 1022 林班い小班と 1024 林班い小班での施業を行うために計画する路線である。

また、現地検討会での意見により、H 路線終点を延長し B 路線に接続することで循環路線とし、管理経営面への貢献及び保安林機能の維持と向上を図る。

延長

- L= 1,310m

主な構造物

- 主に集水範囲の小さい尾根部付近と 10° ~ 30° 程度の横断傾斜地を通過するため排水施設等の構造物設置箇所はない。

その他

- 一部横断傾斜が 30° を超える箇所を通過する短い区間で、薄層盛土などの流出を防止するため、ふとんかご等の簡易構造物を設置する可能性がある。

① H-0～H-10 区間

分岐点の予定位置より横断傾斜の緩い G-8 を起点位置に変更した。また、予定路線位置は斜面が急なため 20m 程度山側に路線変更している。

縦断勾配：1～4%程度

横断勾配：8°～30°程度



A 路線の分岐点 G-8 から H-1 方向



H-6～H-7 方向

② H-11～H-20 区間

予定路線位置は横断傾斜が急なため 20～40m程度山側の緩斜面を通過している。

縦断勾配：2～9%程度

横断勾配：22° ～30° 程度



H-12～H-13 の沢下流方向



H-19 の沢頭から下流方向

③ H-21～H-30 区間

予定路線位置は横断傾斜が急なため 10m程度山側の緩斜面を通過している。

縦断勾配：5～8%程度

横断勾配：22°～33°程度



H-22～H-23 方向



H-28～H-29 の尾根 川側方向

④ H-31～H-40 区間

H-31～H-40 の区間は、分収育林との境になる尾根部に向かい、中傾斜地を 2%～8% の縦断勾配で下っている。

縦断勾配：2～8%程度

横断勾配：24°～29°程度



H-32～H-33 方向



H-34～H-35 方向

⑤ H-41～H-50 (B-116) 区間

H-41～H-50 の区間は、分収育林の境にあたる尾根部を利用して巻き返し、3%～9%の縦断勾配で下りながら B 路線終点に接続する。

縦断勾配：3～9%程度

横断勾配：14° ～28° 程度



H-42～H-43 方向

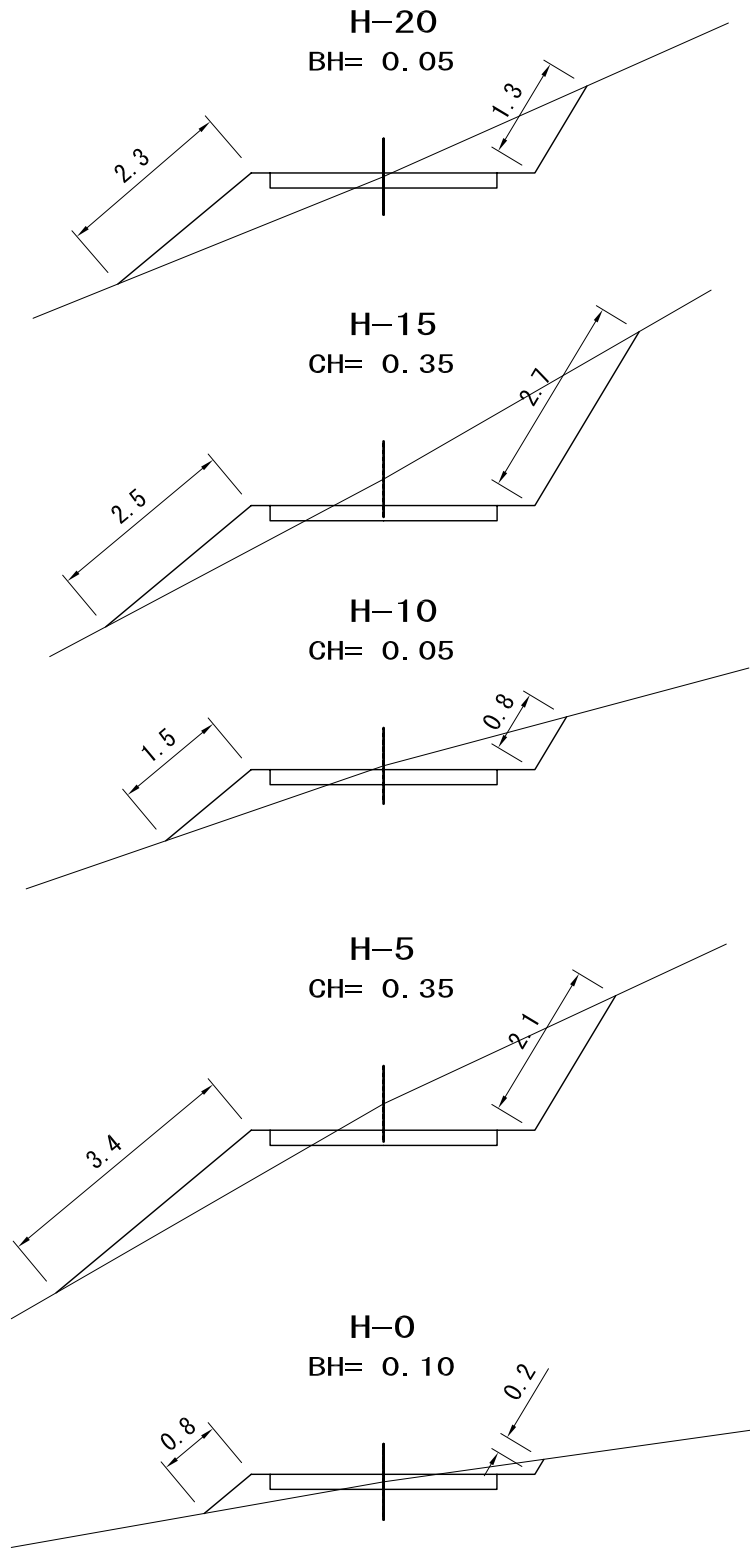


H-45～H-46 方向

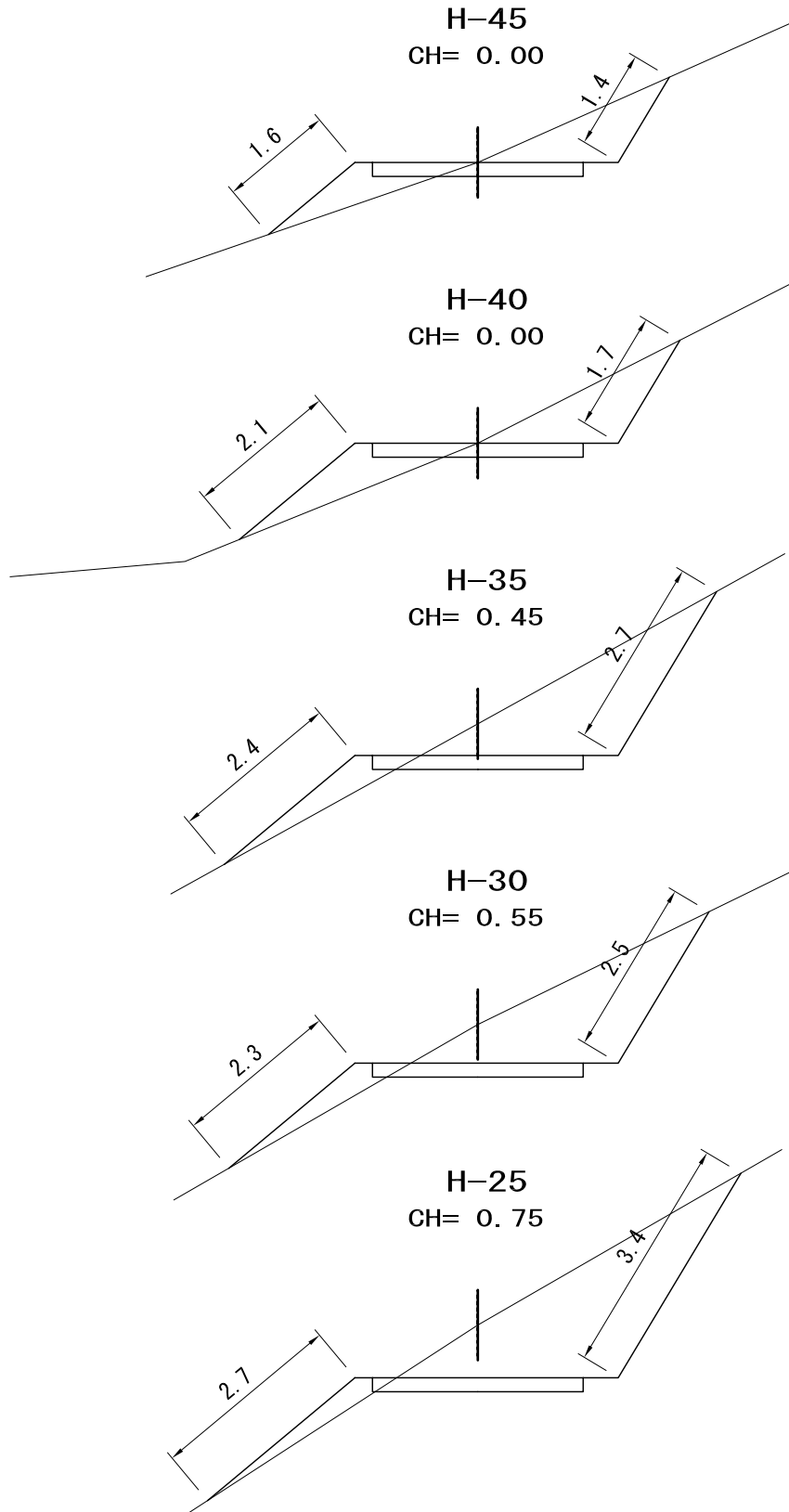


H-49~H-50 (B-116) 方向

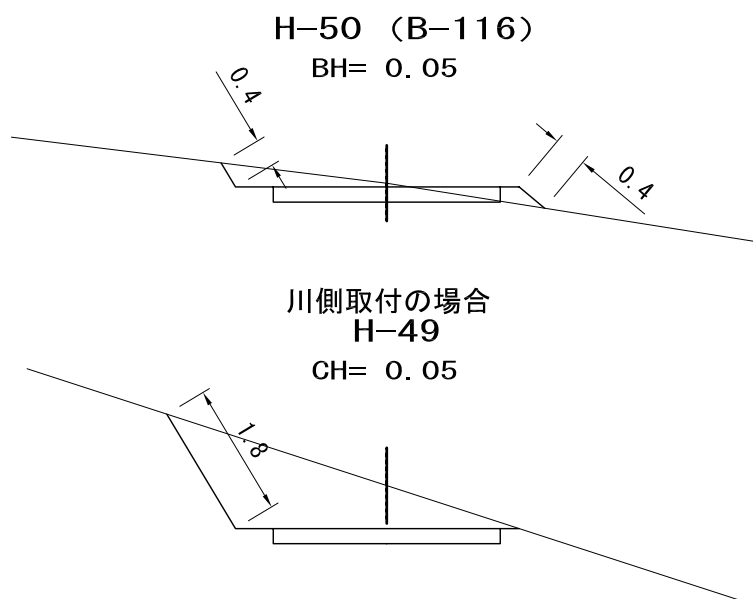
標準横断面図 S=1:100



標準横断面図 S=1:100



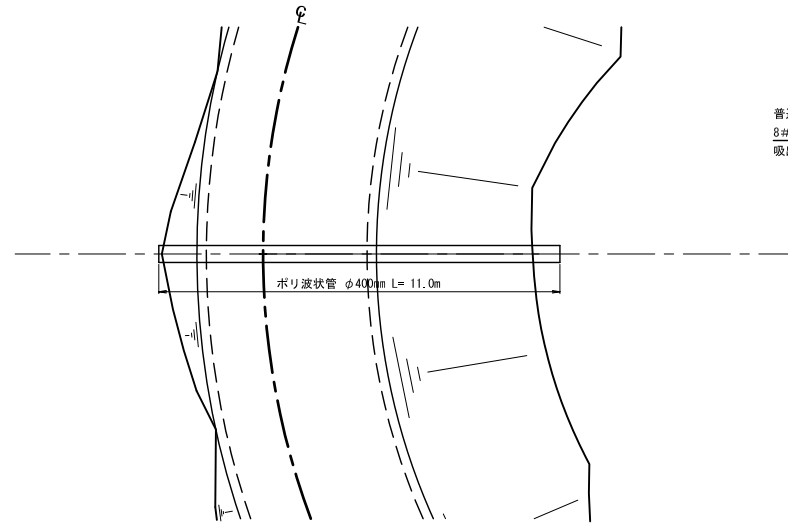
標準横断面図 S=1:100



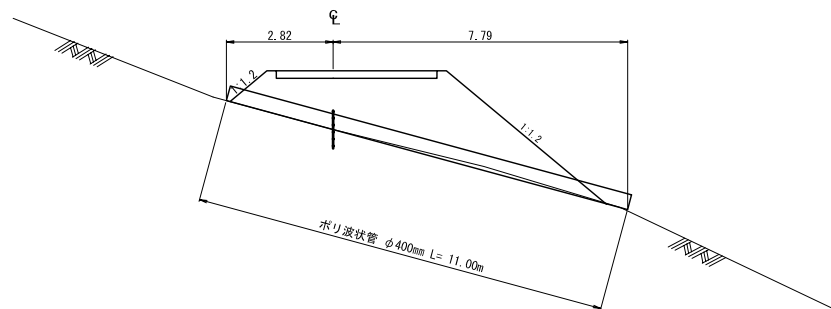
想定される標準構造物図① S=1:200

排水施設
ポリ波状管

平面図

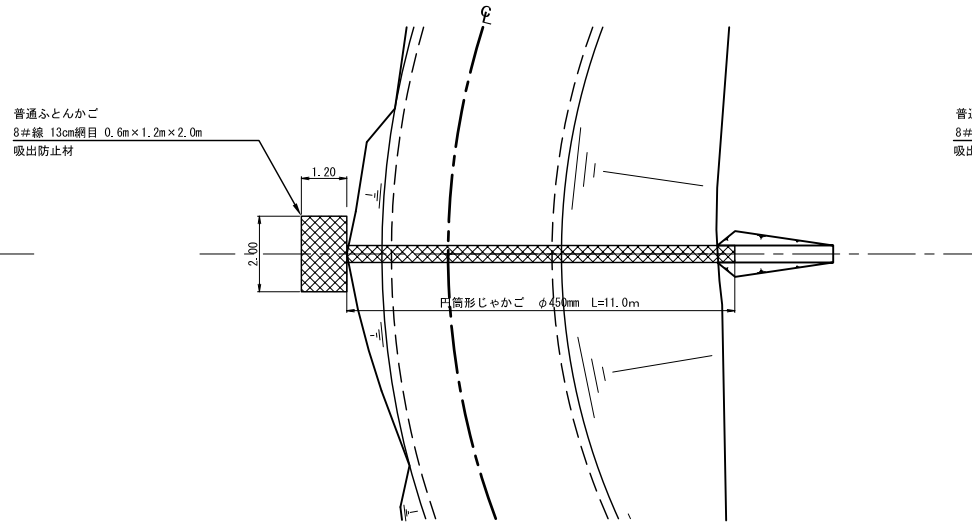


断面図

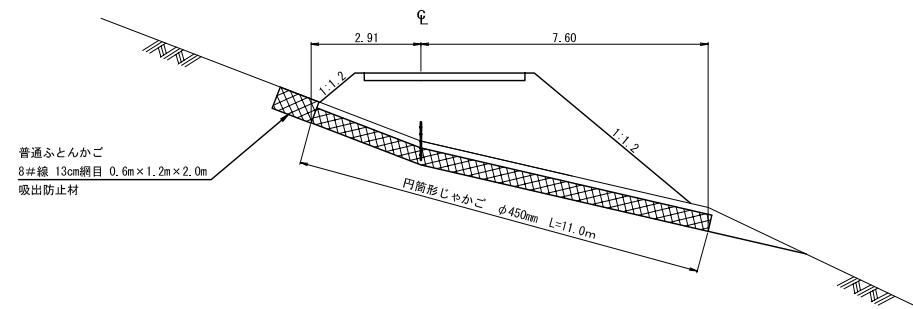


排水施設
暗渠排水（円筒形じゃかご）

平面図



断面図 S=1:100

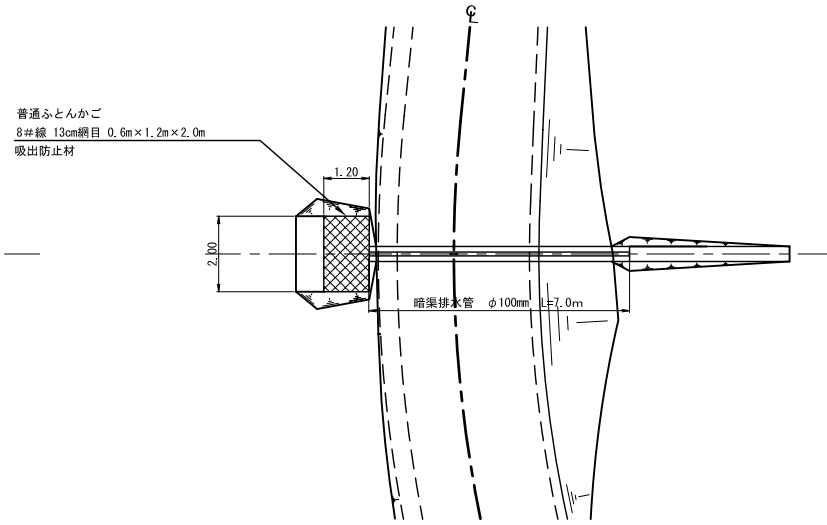


円筒形じゃかご断面図 S=1:50

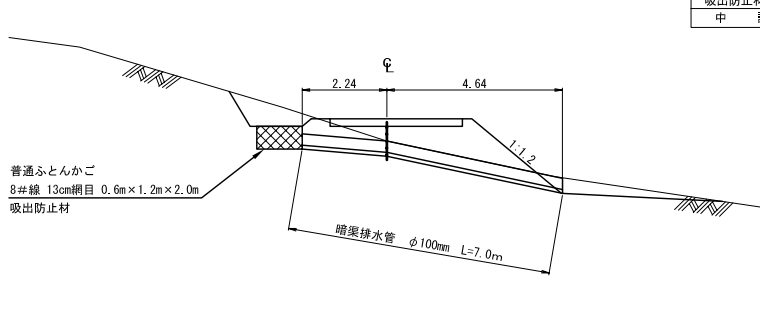


排水施設
暗渠排水（有孔管）

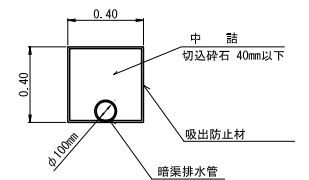
平面図



断面図 S=1:100



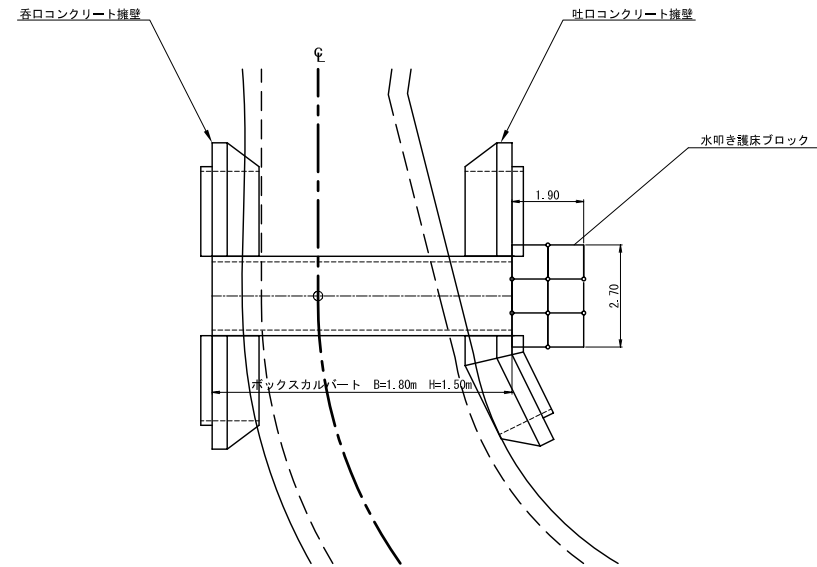
パイプ暗渠排水工断面図 S=1:20



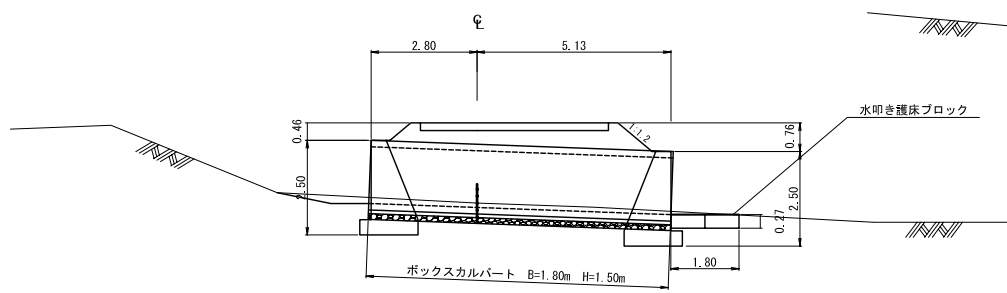
材料表		
名称	適用	規格・寸法
暗渠排水管		高密度ポリエチレン管（有孔）φ100
吸出防止材		厚10mm
中詰		切込砕石 40mm以下

排水施設
ボックスカルバート

平面図

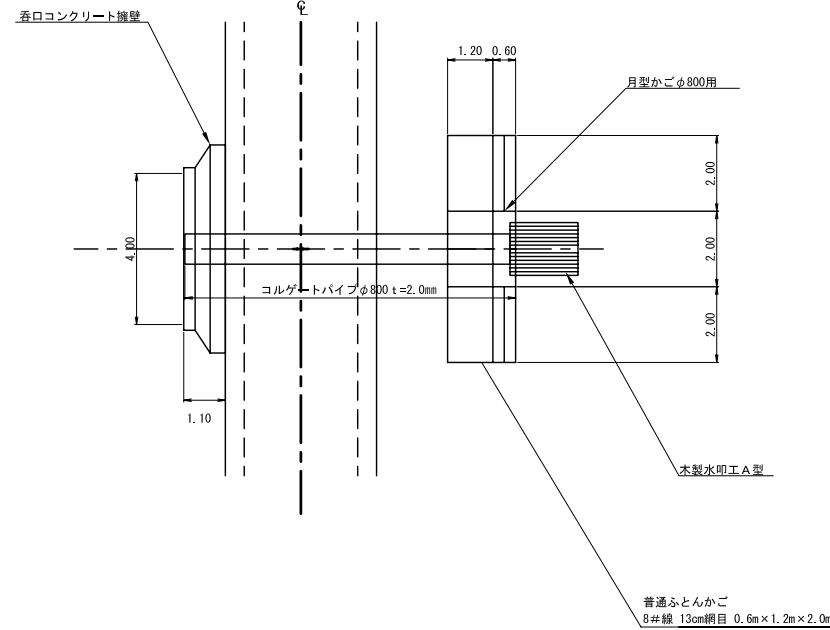


断面図

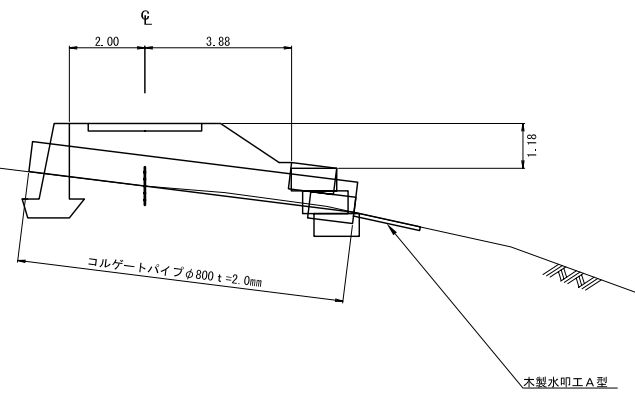


排水施設
コルゲートパイプ

平面図

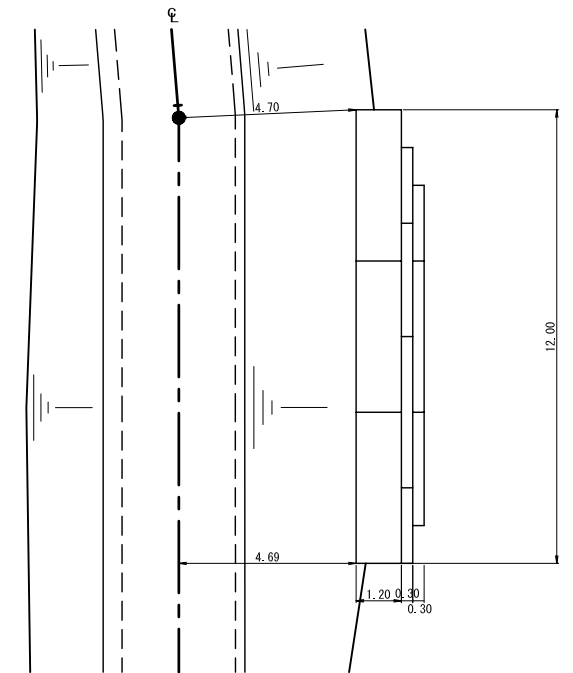


断面図



擁壁工
ふとんかご

平面図



正面図

